

月刊

GPP



Vol.80

令和4年8月号

株式会社
グロースパートナーズ

セルドロン事業、次のステージへ

マレーシア生活が長かった私にとっても、今年の太陽の照り具合は強烈である。8月10日（水）は打ち合わせやら、収録があって、炎天下で1日2万歩も歩いたのだが、さすがに堪えた。

さて、これが出るころには公表されているであろうが、プライム上場企業の（株）安藤ハザマ社と資本提携を結んだ。当方が筆頭株主であることに変わりはないが、公開企業に資本参加して頂いたことが意味するものは大きい。社会的信用が全然違ってくる。

建設業界は総じてコンサバティブである。人命を預かる商売ゆえ、それは大事なことも知れない。いままで「グロースパートナーズの藤井ですが・・・」と言っても、そもそも門前払いが殆どだ。社名がカタカナである時点でダメなのかも知れないと思ったりする。

それが、例えば長年に渡って共同研究開発をして頂いている青木あすなろ建設が同じことをやれば、取り敢えず相手は耳を傾けてくれるものだ。昔はこのこと自体にイチイチ欲求不満を覚えていたが、もはや達観の境地で「それも無理はない」と思えてきている。受け入れているのではない。何がどうあれ、聞いてくれないならば、聞いてもらえるように工夫するしかないのだ。

こういう局面では、いろいろな人間模様がスポットライトを当てたようによく見えた。反省もあり新しい発見もあったし、素晴らしい人に出会うことが出来た。反面教師も、ある意味大切な存在だ。

これからセルドロン事業は新しいステージに移ることになる。まだまだ、これからである。

藤井 成厚

セルドロンがため池整備工事に採用

防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法(令和2年法律第56号)が令和2年10月に施行され、全国に54,610箇所ある中の一つのため池でセルドロンが採用されます。今回の案件で実績ができ、他のため池でも採用が続くと考えられます。ため池の多くは、環境に配慮した工法で工事を進めていきます。そのため、セメントが使いにくい現場もあるようです。セメントのアルカリや六価クロムなどの溶出を危惧され、その場で改良をするのではなく、ため池の浚渫土を外部へ搬出し処分するようです。セルドロンの使い方は様々ですが、浚渫土をダンプトラックなどですぐに運搬させることができたり、強度があまり必要ないところで埋め戻したりすることが可能です。

今回の現場では10月頃にセルドロンを使用すると思いますので、ご報告させていただきます。

セルドロンが軟弱土に活用か！？

8月ある企業から問い合わせがありました。公共工事で掘削土を指定の処分場へ運ばないといけませんが、掘削土に水分が多く含んでおり、流動性が高いようです。このままでは処分場の受け入れが難しく、改良をするなど対策を協議しているとのこと。何か良いものがないかとネット検索し「セルドロン」へたどり着いそうです。企業様がセルドロンを気に入っていただいた理由に、原料が紙100%で改良効果の他に、環境提案もできそうとのことでした。

これから役所との協議が始まるようですが、新しい商材や新しい工法を理解していただけたらと思います。自治体では、施工実績がないと採用されないことが多くありますが、0から1はこの自治体でもありますので、チャレンジしていただけると嬉しいです。可能な限りご協力致しますのでお気軽にお問い合わせください。

セルドロンに関する疑問質問は営業 土井まで  03-4405-2642